

## 洗 納 沢

一九七八年八月十三日

◆天気(晴)

スカイバレー開通記念碑の建つ展望台から踏跡をたどつて沢に降りる。六時三〇分。五分程登ると洗納沢出合である。入つてすぐ三ヶ程の小滝。有名な黒滝はすぐだ。黒滝は大きく三段に分かれており、中段はゆるやかだが上段及び下段は垂直に近い。落差は全体で約六〇ヶといつたところだろうか。下段は左岸を捲き、中段は直登。上段は途中まで右岸を登りあとはブッシュに逃げこむ。

このすぐ上流四ヶの滝がありその先が更に五〇ヶ位の滑り平になる。このあたりから傾斜が急にゆるやかになり平凡になる。八時、左にヤブをこいで、いったん竜崎沢に出たあと再びヤブをこいで西吾妻と白布高湯を結ぶ登山道に出る。

(タイム)

(記: )

洗納沢出合六・三五―黒滝六・四五―沢終了八・〇〇  
―登山道八・五五―若女平九・一〇

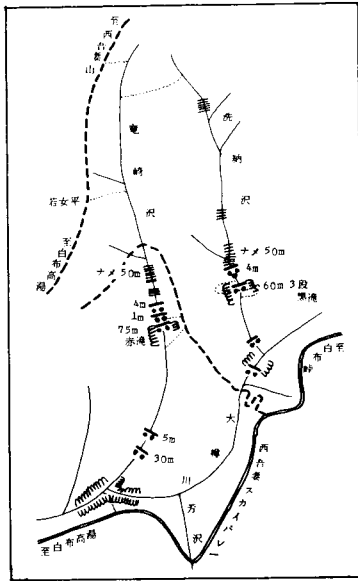
## 吾妻山と文献

吾妻山の登山道については数多くの単行本、雑誌でふれられてきたが、沢については中津川などいくつかの沢が断片的にとりあげられてきたにすぎない(たとえば「山と仲間」No.104)。最近になって「日本登山大系 第1巻 北海道・東北の山(白水社)」にある程度まとまった形で紹介されたが、これとて主要な沢の紹介にとどまっておろ、吾妻山全域にわたって、詳細な紹介をこころみたのは本誌が最初であらう。

各山岳会の発行する会報類のなかには、吾妻山の沢の記録もある程度みることができるといえる。これらの中では福島キャンソン山の会のもの(「踏跡」第5号)に一五本の沢が収録されており特筆に値する。

本誌の発行を機会に、我々は山岳会の中に眠っている貴重な資料をまとまった形で広く一般に提供する活動をよびかけるものです。

(K・N)



竜崎沢，洗納沢（作図：）

つたが、そのまま本流を進む。一時間程歩くと滑。二〇分位の長さはあろう。右より支沢が滑となってそいでいる。ここよりこの小沢に入る。本流は少し先で二回程の小滝がかかっていた。すぐ水もかれ二五分程で登山道に出た。ずいぶん上まで遡ってきたもので、ヤハズ沢の水源となっている馬場合地の湿原まで三五分かかった。

（記・）

〔タイム〕

- 芳沢出合七・三五―洗納沢出合八・二〇―淀沢出合八・三〇―ヤハズ沢出合九・五五―沢終了一一・二〇―登山道一一・四五―馬場合地一二・二〇―白布峠一三・二五

竜崎沢（下降）

一九七八年八月十三日  
一三・一四・一五

◆天気（晴）

一一時二〇分下降開始。最初は平凡である。やがて踏跡が沢を横切る。その踏跡はスカイバレー開通記念碑の建つ展望台へと続いているようだ。ナメを越えなおも下ると小滝がある。そしてすぐ赤滝。七五分の垂直に近い滝だ。左岸ブッシュ帯を下ろうとしたが下部が岩壁にさえぎられてとても無理。大きく左岸をまいたら先ほどの踏跡に出た。踏跡を下ったあとまたブッシュの中に入り赤滝の下に出る。一二時二〇分、三〇分程休んでまた出発。その先の五十分滝は慎重にクライミングダウン。すぐ三〇分滝。右岸を少し下ったあとザイルを出して二〇分の懸垂下降。登ることならできそうだ。このあとすぐ大樽川に出る。一三時四五分。（記・）

〔タイム〕

- 若女平一一・一〇―沢一一・二〇―赤滝一一・四五―大樽川出合一三・四五